

# 週刊センターニュース No.39



第39号(2004年12月7日)毎週月曜日発行  
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL: [http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou\\_rche/index.htm](http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm)

## 共同学習会のご案内

第50回 日時: 12月9日(木) 16:20~17:50  
場所: 角間キャンパス総合教育棟2階会議室  
テーマ: e-Learning 国際シンポジウム参加報告  
担当: 堀井祐介(金沢大学大学教育開発・支援センター)

## 本学イーラーニング研究会と第51回共同学習会との合同研究会(第5回)のご案内

日時: 12月17日(金) 16:20~17:50  
場所: 総合メディア基盤センター2階プレゼンテーション室  
タイトル: 「学生の自立性を高める教育学習支援システム・TIESの取り組み」  
講演者: 堀真寿美・細谷征爾(帝塚山大学 TIES 教材開発室)  
内容: 帝塚山大学では学生が自主的に学ぶ姿勢を育て、社会に貢献する人材を育成するために1996年より学生のための教育支援プロジェクト TIES(タイズ)に取り組み始めた。TIESは現在、本学を含め13大学60人以上の教員で共同利用されており教材数も2000以上となっている。TIESの特徴は大学の垣根を越えた教材・講義の共同配信・利用、そして自習を促す予習・復習機能、教員と学生との双方向のコミュニケーションを図ることができる授業の自己診断テスト・アンケート・掲示板等である。今回の事例紹介ではTIESを利用した実際の授業を紹介するとともに、本学でのTIESを運用するに当たっての教材作成支援、そして授業での運用支援の体制に関して報告する。

## アメリカンフットボール部が関西学生一部リーグに挑戦

4月13日(火)に第一回角間ランチョンプロジェクト「目指すぞ 関西一部リーグ!」を担当してくれた、EVERGREEN アメリカンフットボール部が、関西学生入れ替え戦出場校決定戦において21対14のスコアで京都産業大学に勝ちました。いよいよ、12月11日(土)、近畿大学(関西学生一部リーグ7位)を相手に、悲願の勝利を目指しての入れ替え戦です。13:40 KICK OFF(in大阪市長居球技場)となっています。学生は課外活動でも成長します。教職員一同で応援したいものです。私も、アメフトの学生たちが4月に誓ってくれた合言葉どおり勝利するよう、祈っています(青野)

## 第1回専門分野別教育開発セミナーを終えて

11月28日(日)、金沢大学サテライト・プラザにおいて当センター主催第1回専門分野別教育開発セミナーを開催した。本学教員を中心に、他大学、近郊の中高の教員を含め80名近い参加者を得た。今回は、実験科学として主に化学に関する教材や授業について、5人の講演者から実践例を紹介していただいた。さらに、講演後のパネルディスカッションで活発な議論が行われた。

中垣先生(北海道大学)には、真性粘菌と呼ばれるごくありふれた身近な単細胞に、迷路を解

かせるという斬新な切り口の研究を紹介していただいた。自律分散システムとしての生物の情報処理能を際立たせた研究で、工学部から参加していただいた方々にも興味を持っていただいたものと思う。お金のかからない研究であり、生物の面白さを伝える小中高そして大学での教材への展開を感じさせるものであった。中田先生（奈良教育大学）には、樟脳を使った化学過程から運動を取り出す実験系を紹介していただいた。どこでも手軽にできる実験で、非線形科学の最先端の研究であるとともに、化学の面白さを伝えるすぐれた教材でもある。事実、小中高への出前授業や卒論での題材として活用しておられ、限られた時間と資金で最大限研究と教育に向き合おうとする姿勢が伝わってきて、アンケートからは刺激を受けた方も多かった。

国本先生（金沢大学）、平竹先生（京都大学）には、それぞれの授業での工夫について、また小笠原先生（北海道大学）には北大での組織的な授業改善の取り組みについて紹介していただいた。国本先生は、分子内電子密度や分子モデルのコンピュータグラフィックスを駆使した教材を紹介された。実験の教材化を検討している過程での思わぬ発見が研究へと発展した例など、教育と研究の接点の現場を垣間見ることができた。小笠原先生は、パークリーの「入門化学」の授業を参考にした北大での実験と討論を組み込んだ大人数講義を紹介された。国本先生、小笠原先生の実践例は高校で化学を履修せずに入学してきた学生や文科系の学生に対する導入教育の先進的取り組みに位置づけられる。学生実験を実施できない状況で化学の論理や面白さを伝えることのできる有効な方策である。平竹先生の取り組みもまた、ゼミ形式の授業に化学実験を組み込んだものであり、物質や現象にじかに触れることこそ化学への最大の動機付けになることを強く主張された。特に興味深かったのは、大学院生をレポート添削に参加させていることで、院生の教育に大きな成果をあげている。ここ数年大学院教育についての議論も高まっているが、一つの魅力的な実践例と思う。

筆者個人として特に有益であったのは、小笠原先生による北大の組織的なカリキュラム改革についての報告であった。教養教育と専門教育との重複や欠落など不整合の問題が多く存在することが指摘され、北大での全学的な改善の取り組みが紹介された。筆者が当センターで所属する大学教育開発研究部門において取り組むべき重要な課題の一つがカリキュラム研究である。筆者の不勉強でまだ着手できていないが、今回問題の所在を明確に認識することができた。しかしこの問題には、教養教育、専門教育に関わる多くの先生方の協力なしには一歩も踏み込むことができない。北大の先進例を参考にしつつ、じっくりと調査研究を進めていきたい。ぜひともご協力をお願いしたい。（文責 西山）

## センター教員活動記録

- 2004.10.21 北陸先端科学技術大学院大学遠隔教育遠隔教育研究センター訪問（堀井）
- 2004.10.28 大阪大学法科大学院（高等司法研究科）訪問調査（堀井 委任経理金出張）
- 2004.10.29 「大学国際化の評価指標策定に関する実証的研究」（科研）打合せ参加  
大阪大学（堀井 科研費出張）
- 2004.11.01 シンポジウム「大学教育の課題と展望」（主催：岡山県大学長懇談会、  
会場：岡山大学、）に参加（堀井 公費出張）
- 2004.11.16 公開講演会「ヨーロッパにおけるアクレディテーションの発展とオランダ：  
視学官の視点から」（主催：大学評価・学位授与機構、会場：学術総合センタービル）  
に参加（堀井 公費出張）
- 2004.11.17-18 国際シンポジウム「高等教育における e-Learning：その成功の条件」  
（主催・会場：メディア教育開発センター）に参加（堀井 公費出張）
- 2004.11.20-25 欧州訪問調査（ブリュッセル、コペンハーゲン）  
（「大学国際化の評価指標策定に関する実証的研究」科研費出張 堀井）
- 2004.11.28 当センター主催第1回専門分野別教育開発セミナーの開催  
（青野、早田、堀井、西山）
- 2004.12.2 中央大学法科大学院へ聴き取り調査（中央大学 市谷キャンパス）（早田 公費出張）
- 2004.12.3 セミナー「教員人事・評価制度の開発と活力」  
（主催：地域科学研究会、会場：渋谷東宝ビル）に参加（堀井 公費出張）
- 2004.12.4-5 大学教育学会 2004 課題研究集会参加（立教大学）（堀井 公費出張）